

2005年3月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2005年2月度 高島屋営業報告

* 2004年6月にレストラン街運営を東神開発(株)に移管した立川店の前年数値を調整し、分社4店の売上を含めた18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

百貨店事業概況 本年 -12.4 **実質** -5.4 (前年比%)

2月度は、昨年のうるう年と休日数の1日減少を前年比 - 4%程度の影響があると見ていたが、天候要因も加わるなかで実質 - 5.4%に終わった。

店舗別概況							関西計		
	関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上		-7.8	-4.3	-9.6	-1.0	-10.7	-11.2	-18.7	-6.6
入店客数		-6.9	-4.9	-7.3	2.0	-12.5	-7.4		

* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

店舗別概況									関東計		
	関東	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上		5.0	-9.0	-6.3	-4.2	-9.2	-16.1	-1.5	-2.3	-8.4	-4.7
入店客数		11.1	-6.8	-5.3	-5.2	-9.4	-11.7	-1.6	-8.0		

* 横浜店には港南台店の売上を含む

* 立川店:実質-5.6%

<店舗別> リニューアル後の好調が続く東京店は、特選衣料雑貨・紳士服・婦人雑貨・食料品等が堅調に推移し、売上・入店客数ともに前年を大きく上回った。また、玉川店・柏店・高崎店も比較的、順調であった。一方、横浜店・大宮店は競合激化により苦戦を強いられた。関西では、大阪店は婦人雑貨や食料品等が前年を上回るものの改装工事の影響もあって苦戦した。また、京都店は紳士服、岡山店では特選衣料雑貨が前年を大きく上回るなど、順調に推移した。

広域事業概況	法人	通販	広域計
	6.4	5.9	6.2

<広域事業> 法人事業は、物件受注が堅調に推移する中で、前年を上回った。また、通信販売事業は、家庭用品・家電・趣味雑貨・健康関連・食料品等の好調が主力の衣料品の伸び悩みをカバーし、前年を上回った。

総計	本年	実質
	-10.9	-4.5

商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・洋品	-12.3	-6.2	身のまわり品	-6.3	-0.3	食料品	-8.4	-1.4
婦人服・洋品	-21.0	-14.3				食堂・喫茶	-12.7	-1.6
子供服・洋品	-22.3	-15.6	家具	-11.7	-6.4	雑貨	-0.8	5.6
その他衣料品	-18.3	-9.8	家電	31.2	33.2	サービス	-3.1	0.3
衣料品計	-19.2	-12.5	その他家庭用品	-7.7	-4.3	その他	-34.0	-30.8
			家庭用品計	-6.8	-2.9	合計	-10.9	-4.5

<店頭商品別> 天候の不安定要因によって春物衣料等が伸び悩み、紳士服(前年比 - 6.9%)、婦人服(同 - 15.3%)が前年を下回る結果となった。一方、特選衣料雑貨(同 + 3.3)、美術品(同 + 27.2)などは前年を上回り、婦人雑貨(同 - 2.9)、宝飾品(同 - 6.1)も前年には達しなかったものの、比較的順調に推移した。食料品は「バレンタイン」が好調で洋菓子が健闘したものの前年には至らなかった。